会　　議　　録

会議の名称	平成２９年度第３回史跡津軽氏城跡堀越城跡整備指導委員会
開催年月日	平成３０年１月２６日（金）
開始・終了時刻	午前１０時から午後１２時まで
開催場所	弘前市岩木庁舎２階　多目的ホール
議長等の氏名	委員長　関根達人
出席者	【専門部会委員】 委員長　関根達人 委員　大野敏 委員　福井敏隆 【行政部会委員】 堀越町会長　竹谷光昭 ひろさき未来戦略研究センター副所長　森岡欽吾 観光政策課長　後藤千登世 建設政策課長　三上敏彦 公園緑地課長　古川勝（代理出席：鳴海課長補佐） 都市政策課長　天内隆範（代理出席：宮本主幹兼計画係長） 【オブザーバー】 県教育委員会文化財保護課埋蔵文化財グループ　葛城主幹
欠席者	【専門部会委員】 委員　小林敬一 【行政部会委員】 財務政策課長　岩崎隆
事務局職員の職氏名	文化財課課長補佐　村元広美 同課主幹兼埋蔵文化財係長　岩井浩介 同課主事　福原健 同課主事　東海林心 同課主事　佐藤信輔 建設政策課　工藤技師・石岡技師 株式会社創宇舎　古川代表
会議の議題	（１）　整備事業の進捗状況と今後の事業計画について （２）　史跡ガイダンス施設（旧石戸谷家住宅）における展示計画について （３）その他
会議結果	別添議事録のとおり
会議資料の名称	

会議内容 （発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等）	別添議事録のとおり

【会議内容要旨】

議題（１）整備事業の進捗状況と今後の事業計画について

福井委員　　：三之丸東地区の整備は平成 29 年度から開始となっているが、国道アンダーパスの整備は平成 31 年度となるのか。

事務局　　：その予定。当初、平成 31 年度が整備事業の最終年度にあたり、プレオープンのイベント等が見込まれるため、煩雑とならないよう大きな整備工事は平成 30 年度に終える予定だった。しかし、全国的な合併特例債のピークと重なり、同補助財源の問題が懸念されたことから、文化庁調査官の意見を踏まえ平成 31 年度まで期間を見込んだ。ただし、平成 30 年度には暫定的に供用を始め、東西の行き来が可能となるよう施工業者とも協議していきたい。その場合、五箇村堰に仮設橋を設置する等の対応を考えている。

福井委員　　：壁面パネルは６枚で決定しているのか。

事務局　　：パネル数、位置、舗装、昼間照明等のアンダーパスの整備内容については、国交省の内諾を得ており、仕様もほぼ固まっている。展示内容については以前、「市民参加により、ねぷた絵などで『為信の生涯』を描くなどの方法もあるのではないか」との意見があった。事務局では、他事業と連携し、地元堀越小学校で堀越城に関する総合学習を行い、その成果作品を掲示する方向で学校と協議している。

福井委員　　：白河市の小峰城跡では、毎年全小学校を対象に見学会を行っている。堀越城跡でも実現できないか。

事務局　　：堀越小学校については毎年実施しているが、全学校となると難しい。弘前城跡の石垣修理工事では今年度、全学校対象の見学会を行ったが、学校側のバス借上予算がないため埋蔵文化財活用に係る補助事業で実施した。また、見学に充てる時間を取れない等の理由で辞退した小学校もある。

福井委員　　：弘前城跡に多くの関心が向きがちな状況だが、せっかく整備をするので、堀越城もしっかりと活用してほしい。

事務局　　：位置的な問題から全学校では難しいが、近隣の学校を対象として学習の素材にしていただくことを検討したい。また、今後、平成 31 年度のプレオープン時か、平成 32 年度のオープン時に、全小学校対象の見学会を実施することの可否についても検討したい。

大野委員　　：川崎市の古民家では、小学４年生を対象に、全校で地域学習として体験学習を行っている。旧石戸谷家住宅での体験も検討してほしい。また、資料の構成につ

いてだが、全体の流れがまとまっており、具体や予算がわかりやすい。全体像が明確な状態で会議できて良いと思う。
　整備予算についても見通せる資料となっているが、事務局のほか各行政委員においては、今後は維持管理に経費がかかるという認識を持っていただきたい。

事務局　：概算だが、指定管理に向け維持管理費を積算しており、市の中期財政計画に計上している。加えて、委員のご指摘を踏まえ、15～20 年を 1 サイクルとした長期の体制、概算を考えたい。なお、整備事業報告書の刊行にあたっては、活用や次期整備を見据え、費用を含めわかるような資料とするよう文化庁から指導されている。内容は、堀越城跡の取扱説明書にも活用したい。

大野委員　：人によるガイド等、ソフト部分でのＰＲ活動をしっかりとやってほしい。ＳＮＳ等で、来訪者の「行ってみたら対応が良かった」という感想はすぐに広まる。また、二之丸側からの空撮写真についてだが、城跡に加え街道がよくわかる。ポスターに使ってもいいと思う。

関根委員長　：岩木山を望む写真とあわせ、この２枚で堀越城跡をよく説明できる写真だと思う。今後も活用してほしい。

建設政策課長：今後の整備について、平成 31 年度の国庫補助の見通しはどうなっているのか。

事務局　：依然として厳しいが、文化庁では、「事業最終年度には満額交付する」との内部整理がある。ただし、全国的に合併特例債のピークが重なることから、文化庁とは引き続き協議を重ねていきたい。

建設政策課長：公開の年は東京オリンピック開催の年でもある。是非、しっかりと仕上げていただきたい。

議題（２）史跡ガイダンス施設（旧石戸谷家住宅）における展示計画について

関根委員長　：ガイダンス施設の「ハードによる対応」について、時代的に津軽だけでなく全国的にも下剋上が盛んな時期。為信と堀越城の前に、全国的な流れを説明してはどうか。その中での為信や堀越城の位置付けを行い、同時期の他の城との比較等もあると、よりわかりやすくなる。

事務局　：為信を知っていることが前提の解説となっていた。全国の説明で 1 コーナーを設けた方が良いか。

関根委員長　：スペースが限られているため、為信と堀越城の説明の流れに前段として、盛り

込む形で良いと思う。

事務局　：早めに整理し、テキスト化した段階で諮ることとしたい。

福井委員　：展示の仕方は「堀越城そのもの」と「為信」の２つに特化している。堀越城は実動期間は短いが、戦国時代から江戸時代への流れの中にあった時期、というストーリーを入れると良い。また、展示場所となる旧石戸谷家住宅は、城に直接関係しない建物なので、当時の城内にあった建物ととられないような説明が必要。

事務局　：靴を脱がずに入れる土間部分を城のガイダンス部分とし、建物の説明は座敷部分で行う想定だったが、座敷まで入る人以外には誤解を与えるかもしれない。外観のみを見る人への対策も考え、土間部分及びあずまや等に説明を追加したい。

大野委員　：ガイダンス施設の表示に、「移築古民家　旧石戸谷家住宅（市指定文化財）」等を追加してはどうか。堀越城とは別の物である旨を最初に載せ、それをガイダンス施設としているという書き方くらいで良いと思う。

福井委員　：イナベヤに置く民具の候補はあるか。

事務局　：解体時に引き上げたものは保管しているが、民具としては未整理。業者と調査を進めたい。体験スペース含め広くはないため、置けるものは限られる。

関根委員長　：映像資料について、大野委員へのインタビューは是非実施してほしい。

大野委員　：是非、協力したい。なお、住宅の説明の中での「解体工事」という言葉は、実態としては調査・保存を行うものでも、一般の見学者には「壊す」というマイナスのイメージを与えかねない。部材を大事に外してとっておいた、と伝わる言葉が良い。また、普請を土木工事、作事を建築工事として整理しているが、普請という語は建築も含む場合がある。

事務局　：普請に建築工事が内包されるということか。

大野委員　：その通り。「道普請」「橋普請」という言葉があるほか、民家建築の設計を「普請帳」とも呼ぶ。

事務局　：誤解を与えないよう、現代の言葉に置き換えた方が良いか。

大野委員　：当方でも文言の整理について調べ、事務局に情報提供したい。ガイドの育成については、横須賀市の軍事遺産等が参考になる。市内の複数箇所を持ち回りガイドする体制とすることで、長期的には市内全体を案内できる人員となる。

事務局　　：市内のガイドの候補としては、弘前文化財保存技術協会及び下部組織の弘前縄文の会がある。市全体を案内できる人となると人選にも限りがあるかもしれないが、事務局としてもそのような人がいてくれるとありがたいので、間口を広げていくことを検討したい。

大野委員　　：京都では古建築専攻の大学生が古建築のボランティアガイド行っている。地元大学との連携もできるのではないか。

関根委員長　：弘前大学にもボランティアセンターがあり、対応できる可能性がある。

議題（３）その他

竹谷委員　　：隣接する堀越雪置場駐車場は、さくらまつり時のパーク＆ライド事業によりバス停留所となっているが、そこから旧石戸谷家住宅が見えるため、多くのバス利用者が興味を持ち見学に来ると思う。その対応はどう考えているか。

事務局　　：待合プレハブにチラシを設置しＰＲを行っている。

都市政策課　：パーク＆ライド事業は、社会実験的な意味もあり実施していたもので、来年度からは行わないこととなった。

竹谷委員　　：秋田・岩手方面からの観光客が利用していたと思うが、新たな経路はどう考えているか。再度利用したい人への周知は大丈夫か。

都市政策課　：市街地への直接の来訪か、大鰐線の利用を考えている。周知はチラシ等で行う。

関根委員長　：弘前城に連動してアピールできる場だったので、事業終了は残念。
　ＰＲ方法としては、整備完成後に市立博物館で「為信と弘前」等の特別展を行い、誘導するのはどうか。本体の整備ができていれば、博物館や弘前城を見た帰りに、立ち寄る人がいると思う。是非企画化し、知名度を上げてほしい。

事務局　　：弘前城跡二の丸利活用施設との連動も考えている。また、来年度から開館する高岡の森歴史館とも連携できないか検討したい。

県葛城主幹　　：国庫補助予算が来年度も厳しい見込み。引き続き文化庁との協議や情報収集をし、交付に努めたい。また、文化庁の「事業最終年度には満額交付する」との内部整理は確実に保障されたものではないため、県としても早めに協議していきたい。